

タウンミーティング 会議録

日 時：平成21年11月30日（月） 19:00～20:37

場 所：中央公民館（浦山）

テーマ： 1．地域医療体制について
 2．総合交通ネットワークの整備について
 3．新庁舎建設について

参加者：82名

【事務局】

ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、只今から平成21年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内の4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は3日目であります。今回のテーマにつきましては、一つ目が、「地域医療体制について」、二つ目が、「総合交通ネットワークの整備について」、三つ目が、「新庁舎建設について」の以上、3つのテーマです。

最初に市長からこのテーマについて、約20分ご説明申し上げます。その後、この3つのテーマについて、会場の皆様方から、順次、ご意見、ご提言をお受けいたします。

なお、終了時間は、8時30分ごろを目処として進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかったご来場の皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日ごろから感じておられることをご記入いただきまして、お帰りの際、受付で回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただく予定としております。

それでは、堀内市長から、ごあいさつと、テーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

みなさん、こんばんは。

本日はタウンミーティングを開催いたしましたところ、皆様方には、お仕事の後の大変お疲れのところ、そしてまた家庭だんらんの大変貴重な時間をこのようにお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、このタウンミーティングの開催にあたりまして、地元の自治振興会、あるいは町内会の役員の方々には大変お世話をいただきましたことに対しまして、心から感謝申し上げたいと思います。

さて、黒部市が合併して4年目に入っております。また、新しい黒部市のまちづくり計画であります第1次総合振興計画がスタートし、1年半あまりたったところでござい

す。ここまでは、沢山の課題があるわけですが、その実現も概ね順調に推移することができたのではないかと考えております。

ただ、一方で新政権になりまして、いろんな事業仕分けが行われながら、いろんな方針、或いは政策が変わろうとしております。それらの影響が我々地方にどのように影響してくるかということについてはまだ不透明なところが沢山あるわけですが、そういう新政権の動きを注視しながら、大事な黒部市の重点プロジェクトの実現に向けて、今後とも鋭意取り組んでいくことが大事だと考えております。

それでは、限られた時間でありまして、本日のテーマにつきまして説明を申し上げたいと思います。

皆さん方には、映像のほうをご覧いただきたいと思います。

詳細については、「課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから本日のテーマに関して、会場の皆様からのご意見やご提言をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見を述べていただきたいと思います。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの方からご意見をちょうだいしたいと考えておりまして、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内でお願いいたします。

それでは、ご発言される方の挙手をお願いします。

【Aさん】

内山地区のAと申します。

新庁舎建設について市長にお聞きしたいと思います。私、去る10月に、黒部市民会館でありましたタウンミーティングにも参加いたしまして、意見を聞いたわけでございますが、私たち宇奈月地区におきましては、黒部市にできるという形の中で、一番最も経済的な方法はどうかかなということを考えますと、やはり三日市小学校跡地を利用しながら、新庁舎を建設したほうがよりベターではなかろうかというふうな考えを持っております。そういうことで、まず、やはり財政面からいいましても、コラーレ周辺になりますと、用地買収等とかが新たに発生するという形もありますし、三日市小学校跡地ですと、旧の庁舎跡地をまた利用できるんじゃないかということを考えますと、そのほうがよりベターではなかろうかと。

オールマイティにこれが絶対だということはやはりないと思います。どちらにしましても、いい点と悪い点が相反するはずなので、経済的な面からいいましても、これから、やはりますます財政的には厳しくなる今日でございますので、そういうような考えで意見を申し上げました。

以上です。

【市長】

一人一人でなく、3人ほど質問を受けたいと思います。

【事務局】

それでは、新庁舎建設についてご提言のある方、よろしくお願いします。

【Bさん】

愛本地区のBです。今度で3回目、来ましたんですが、三日市跡地とコラーレ付近と新幹線駅周辺の3つの地域で一つ一つの大体の概算の予算額がわかりましたら教えていただきたいと思います。

【事務局】

新庁舎について、ほかにまた、ご意見のあるかたおられませんか。

【Cさん】

音澤のCです。

今度で、私も3回目なので、今の人の意見のさらに確認なんですけど、三日市小学校跡地で建設された場合、まず建物はどこで建てても同じ規模で考えられると思うんですね。そうするとこの金額は一緒だと。コラーレで建てた場合は、用地買収が必要だということで10万円という話でした。必要な面積が約1万4,250平米数ですが、これは駐車場も必要とすると約9,000平米の、建屋を3階建てとした場合はその3分の1という計算をすればこれだけのものになると。三日市小学校であるのが約1,000ちょっと。同じ面積を必要とするという考えのもとになると、この足りない分を周辺のところで賄わなければならないということ、三日市小学校で建てる場合、現場に建てるのにも道路の拡張関係がちょっと必要じゃないかと。建てる車両関係とかそういったものを入れるのにも必要じゃないかという思いがあるので、そういったものの移転をお願いしなきゃいけないと思うんですね。この移転費を一体どの程度考えて、どれだけ必要なのか。それで、例えば新幹線のほうだと、用地買収からいって、その用地買収で全体で幾ら、ここは10万円からまた値段が下がるような感じがあると思うので、その辺の比較検討を、前回のほうでも何か出してほしいという要望があったと思うんですが、それが、今回出ているかなという思いで来たもので、その辺を事細かに教えていただければと思います。

【市長】

それぞれありがとうございました。

まず、Aさんが最初に言われた経済的な方法、あるいは財政面を考慮してということについては、どの場所につくっても当然なことだというふうに思っております。

そこで、その後お二方から予算面のことをもう少し具体的にというお話でありました。前回、10月のタウンミーティングのときに、概算でありますけど、3つの庁舎の規模についてお話を申し上げました。総務省の起債基準面積というものがあるんですが、それからしたら5,000平米余りでありまして、それではやはり大変手狭もので、今の庁舎が約4,000平米あります、宇奈月庁舎が同じ4,000平米ほどありまして、現在でも合わせて8,000平米ほど延べ床面積としては使っているという状況の中で、今後建てる予定の建築面積、延べ床面積をどれぐらいにするかということで、建設検討委員会などで議論されたのは、端数は

あるんですが、わかりやすく1つは8,000平米、9,000平米、1万平米、それぐらいの規模の中で、いろいろ内容が考えるべきではないかというようなご提案をいただいております。

そこで、まず、設計とかいろんな解体とかいろんなものも含めて、8,000平米で約35億円かかると思います。それから、9,000平米で37億円余りかかる。そして、1万平米で約40億円と。それぐらいの建築予算になるのではないかというふうに思います。

それに対して、庁舎を建設するための特定財源として、先輩の皆さん方のおかげで15億円余り基金をつくっていただいております。それから、この時期に何とかして庁舎を建設したいというのは、庁舎は本来自前で建てるしかないんですが、今回合併特例債だったら庁舎に充てることができるという判断の中で、合併特例債も幾らでもというわけにはいきませんが、総務省の基準からしたら11億円余り庁舎に充てることができます。合わせて26億円余りが、この特定財源として今現在考えられる。この時期なら庁舎は何とか建設できるのではないかということで、今この計画の検討を進めているところであります。

そこで、26億円余りの特定財源、先ほど言いました35億円から40億円を建築だけでかかるとすれば、特定財源を引いたら、35億円の場合は9億円、40億円の場合は14億円、足りないわけでありまして。それを約3年間ほどかけて、庁舎はおそらく工事期間が準備も含めて3年間ほどかかると思いますが、それを約3年で予算化するとすれば、9億円を3で割れば平均すれば年間3億円、14億円の場合は約4.5億円、それぐらいの予算であれば今の黒部市の力の中で何とかやれるのではないかなということで、今この時期に新庁舎を建設したらどうかということであります。

それにプラス、先ほど言われた当然庁舎は建物だけではございませんので、駐車場はどうするのかということでありますが、駐車場につきましては、先日も説明しましたように、職員用と公用車合わせて240台、公用車が40台ございますので、職員が245人ほどそこで働く予定でありますから、それからしたら約200台の職員の車が駐車されるということと合わせて、市民の皆さん方の駐車スペースとして210台、合わせて450台、今駐車場のスペースとして必要ではないかと。それで、450台を面積にしますと、1台約25平米ほどかかると、必要だということでありますので、合わせて1万1,250平米、これが駐車スペースとして必要です。それを、新たな土地で全部取得する場合、先ほど建築にかかる予算は概算で言いました。あとはこの1万1,250平米を新たなところで取得する場合どれだけかかるかということになります。カラーレ周辺ですと、10万円までしませんがそれに近い、1割程度もう少し下がっているかなと思っておりますが、それでも9万円余りはするのではないかなというふうに今想定されておりますので、それは坪ですけど、坪それぐらいかかりますから、そうするとそこには9万円掛ける1万1,250平米ですから、三千五、六百坪、約10億円ほどの土地代金がかかるということになります。新幹線周辺だったら、若干安いので、8万円程度でいろいろとお願いしているわけでありまして、それももう少し1万円程度安く上がる。いずれにしても、10億円から1割程度ですから8億、9億というような予算が土地代として必要ではないかと、そういうふうな状況であります。

そういうことを総合的に考えながら、先ほど来ありますように、財政面、効率的な庁舎建設をするためにはどうすればいいのかということであります。

それから、もう一点言われた、旧三日市小学校の跡地の場合どうなるのかということでありますが、旧三日市小学校の跡地のところをよく見ますと、小学校の跡地とすれば1万平米余りしかございません。ただ、さらに市有地としてその隣接している面積が2,000

平米余りありますので、うまく効率的に活用すれば1万3,000平米近くはあそこで確保できるのではないかと。それはあくまでも、個人の、民間の皆さんの地面は一応取得しないということで考えてもそれぐらいの面積は確保することは可能かなというふうには思います。ですから、できるだけ道路の拡張みたいな話もされましたが、たとえそこでするにしてもあまりお金を掛けない方法で、今後は、たとえそこで検討するにしても、考えていかなければならないのかなというふうには考えているところであります。

【事務局】

Aさん、Bさん、Cさん、よろしいでしょうか。
そのほかございませんでしょうか。

【Dさん】

愛本地区のDです。

先ほど庁舎の敷地の問題で、市長さんが言われましたけど、1つ、市に対するお願いがあります。というのは、何かと言いますと、100%土地を市が取得するんじゃなくて、民間活用もひとつ考えていかなきゃいけないことです。というのは、何かと言いますと、そういう庁舎とか公用車の敷地についてはいたし方ないことかと思えます。市が取得。だけど、職員の駐車場というのは、100%市が取得する必要はありません。というのは、だれか有料駐車場をつくって、そこで借り上げてもらえばいいことなので、そういうことを考えますと、ある程度ほかの市町村でも県のほうでも、今では職員は乗用車に乗ってくるなど、公共交通機関を利用するということになっております。そして、職員はどうしても乗って来たい人は有料です。そういうことを考えますと、三日市小学校の跡地というのは、非常に道路のアクセスが悪い。宇奈月地区からの距離は、やはり8号線、それから周辺の駅のほうにアクセスができる場所ということになりますと、やはり新しい地区で、新しい町に持っていったほうがいいんじゃないかなと。あっちこっちと個人的にはここで言いませんけど、ある程度、将来的に開放感のある発展性のある場所を選んでほしいということで、三日市小学校の跡地というのはあれ以上開放できません。要するに拡張ができない、また、新たな関連施設をつくらうとしてもできない場所です。

そういうことを考えますと、ある程度将来性を考えた予算にとらわれない新しい黒部市を考えていただきたいということで、また市長さんの判断をお願いしたいということで、よろしく申し上げます。

【市長】

Dさんが言われたように、すべて今言ったような土地を取得するというようなことは、基本的には考えておりませんので、例えばコラーレ周辺の場合だったらコラーレにある駐車場、あるいはその近くに市の市有地なども一部ほかにもございまして、そういうところの駐車場活用、今実際コラーレそのものも非常に駐車場で悩んでおります。今まで、前の道路が広がったものですから、片側駐車ということをとめていたんですが、あの整備が進めば道路駐車ができなくなると。あそこだけで、大きな集まりがあったときは道路に200台をとめておったんですが、それがとめられなくなったときは、大ホールがいっぱいになったようなときは非常に駐車場が足りなくなりますので、その対策も今考えておりますが、

そういう意味では、その周辺で今市が持っている土地の中でまず利用できる場所がないのかということで、今検討などもしている。庁舎の駐車場問題に関しても、民間の力を借りてやるという方法、庁舎につきましても、東京都千代田区、うちもいろいろ都市農村交流なんかでお世話になっている千代田区さんの庁舎なんかは、民間につくってもらって、そこを借りて入っておられますので、いろんな方法もあるということであります。

ですから、そういういろんな方法を考えながら、どうするべきか、どこにどういう規模でやっていくかということについては、慎重に考えていきたいというふうに思っております。

それから、職員駐車場は安いのでありますが、月1,000円、職員からいただいております。それが今の現状であります。

【事務局】

Dさんよろしいですか。

【Eさん】

下立地区のEですが、これは架空の話でございますけれども、もしその新庁舎が将来、来年3月ごろですか、市長の決断によって、たとえコラーレ地区方面で決定したというふうなことになった場合、現在の市庁舎の跡地それから三日市小学校周辺の跡地、これらは、あくまでも市がずーっと永久に所有しながら利用していくのか、あるいはまた民間活用という1つの財源として、あそこあたりはそれ相当の中心地区でございますので、いろんな意味で利用もあると思うんですが、例えば民間のほうへ払い下げとか、そういうふうなことも視野に入れてご検討なさっているのかどうかをお尋ねしたいと思います。

【市長】

市の市有地で、民間の皆さん方にお買い上げいただけるような場所であれば、ほかのところ、例えば今の新しい三日市小学校の前にも新牧野団地というのが建っていますが、あそこにも6,000平米ほどあったんですかね、あれも住宅地の敷地として、今売却を進めていますが、市がいつまでも不要な土地を持つということは、必要ないと思っておりますので、不要な土地であれば売却していくというのが基本的な考え方です。

【事務局】

Eさん、よろしいでしょうか。

そのほかいらっしゃいませんか。

【Fさん】

今の市庁舎じゃなくて2番の総合交通ネットワークという件で、私の意見といたしまして、新幹線の駅名です。私も南は九州とか四国、広島、岡山へ行ったりして、北のほうは宮城県とか福島県とかいろんなところへ行っているわけなんですけど、そういう他のところで、いろいろ黒部ということと何々温泉ということについて対話してみますと、大体、はっきりわかりませんが、二、三十%の方は黒部を、黒部ダムとかで知っておられるんですけど、三、四十%の人が宇奈月温泉というのは知っておられると。そういうことで、

この駅名を、これは新黒部じゃなくして宇奈月黒部にするか、黒部宇奈月温泉というふうなことにすれば、今言いましたように、黒部では二、三十%の人、それから宇奈月は三、四十%と、総合すればと70ということで知名度が大きくなるのではないかと、そういったことで、やっぱり黒部市も観光の町ということについては、兩名をつけられたほうが望ましいんじゃないかと思っています。

あと、もう一つ、観光という面では、新幹線が来れば、黒部市も魚の駅もありますし、そういった両方に大切な駅名になるんじゃないかと思しますので、よろしくをお願いします。

【市長】

総合公共交通ネットワークとはちょっと離れると思いますが、駅名についての考え方について少し、今日のテーマとはあまり一致もしていない気もするんですが、若干触れたいと思います。

この新幹線新駅の駅名については、私はいずれ、JRさんが決められるものですから、JRさんに要望はしなければならないだろうというふうに思っております。その時期、タイミングというのがありまして、今まで新幹線の駅名を要望されたいろんな地域の進め方を参考にいたしますと、開業前1年から1年半ほど前に要望が出されて、JRがそれらの要望に対して検討をし、要望の中からその駅名をつけた場合もありますし、要望とは全く別の駅名をつけた場合もあります。その辺は、JRさんは自分の営業面に対して有利な駅名をつけるというのが基本的な考え方だったかというふうに思っております。

そこで、要望する場合には、どういうその駅名を決めるときのプロセス、どういう組織がどういう手続を踏んでその要望名を決めてきたのか、そしてだれが要望してきたのか、要望する場合に、その市の市長がメインで要望されている場合もありますし、もう少し広域の組織でその駅名を決める検討会をつくって、その広域の組織で要望されている場合などもあります。それらを見ながら、どういう組織でどういう議論を経てこういう駅名を要望してきたのかということ、JRさんが検証をされて、そして駅名を決められるということになります。

その要望する時期までにはどういう駅名がいいかということについては、地元の中でしっかりと議論を踏まえて、いずれ要望する時期が来るのではないかなというふうに思っております。その中で、今言われるように黒部と宇奈月温泉という駅名を合わせたほうがいいというご意見なども、この地域の駅名の有力な一つの候補としては考えられるのではないかなというふうには思っております。

【事務局】

Fさん、よろしいでしょうか。

そのほかいらっしゃいませんか。

【Gさん】

愛本地区のGでございます。

今日の3つのテーマの中で、2番というのが、1番にも3番にも影響するのではないかと、かわりがある、一番リンクしているんじゃないかなという気がしております。若干、私どもの地区の事情を申し上げますと、通学に対してまずは親御さんが愛本駅まで毎日送

迎しなきゃならんという事情もございます。また、新庁舎につきましても、やはり地鉄の利用だとか、あるいはその交通ネットワークというのは、非常に重要になってくるのではないかという気がします。つきましては、いろいろ地鉄さんでも試行錯誤しながら、いろんな手を打っておられますが、なかなかその愛本地区からしますと、愛本駅の利用というのがやはりちょっと不便だなという気がしております。したがって、2番の交通網の整備というのは重要になってくるのではなからうかというふうに考えております。

また、新庁舎の建設に当たりましては、コストの低いものを選べばというのは、やっぱり検討しなければならないということと、当然、水問題、世界の食料の事情、それから日本の自給率というものを承知した上でだと思えます。そういうことから、考えますと、優良農地をこれ以上つぶさない方法で、ひとつご検討、場所選びの1つの方法としても取り入れていただけたらという意見でございます。

以上です。

【市長】

まず、公共交通の件であります。先ほどの提案の中でご説明しましたように、今年度中に公共交通の法定協議会を立ち上げます。そして、来年度幾つかのコースでテスト走行をさせたいというふうに思っております。その一番有力なコースとして、愛本地区で来年度テスト走行などもさせていただきながら、平成23年、再来年から実証運行に入りたいというふうに思っておりますので、その愛本地区のルートなどにつきまして、ルートあるいはバス、マイクロバスのようなものがあるのか、ジャンボタクシー的なものがあるのか、そういうことも考えなければなりませんし、ルートについてでも基本的にはその地鉄線を利用していただくフィーダーバスのようなものが必要だろうと思っておりますが、その中でも、愛本地区からJAさんまでとか、あるいは近くのショッピングセンターまでとか、あるいは石坂医院さんまでとか、そういうようなルートを皆さん方と相談をさせていただきながら、来年はまずは愛本地区などでテスト運行を起こしていきたいというふうに思っておりますので、ぜひいろんなご意見、地元の皆さん方のいろんなご意見を積極的に言っていただければ、それに則したそういうような公共交通として運行していきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げておきます。

それから、庁舎については、できるだけ低コストということと、優良農地をつぶすなどというご意見につきまして、大変大事な視点だろうというふうに思っておりますので、そういうことについても、十分参考にさせていただきたいと思えます。

【事務局】

Gさん、よろしいでしょうか。

そのほかいらっしゃいませんか。

【Hさん】

宇奈月温泉地区のHと申します。

新庁舎のことについて、お尋ねしますが、先ほど来からいろんな問題も出ておりました。候補地としては3カ所だという面もわかります。ただ、宇奈月としましては、できるだけ町のほうがいいのかもかもしれませんが、利便性のよいところに移る、この関係はね。それから

道路についてアクセスのいいところ、やっぱりそういうものは求められるような時代だと思っています。そのためには、私が思いますのは、新幹線駅の近くになると、新川農林振興センター、あそこあたりは非常に交通関係も、道路関係も非常によいところでないかと、私は思います。それと同時に、あそこの面につきましては、はっきり言いますと県なのか、市なのかということをおしは知りたいたいですが、まずはそこらへんを利用すれば、やはり緑、山、それから交通の便、これは非常によいのではないかとそう思います。今、小学校の跡地とかコラーレのところがよく言われましたが、そういうことよりも改めて考え直して、将来的な何十年先のことを考えていただければと思います。

今、黒部市は宇奈月と黒部が合併したわけですが、将来的には2次合併ということもあり得るかもしれません。そうしますと、黒部市はちょうど中心になるようなところで、新川地区の中でいいますと、そういうことを考えながら、ひとつ計画を練っていたければなと思いますので、よろしくお願ひします。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。

Hさんが言われるように、利便性とかアクセス道路につきましては、十分考えていかなければならないというふうに思っております。

そこで、新幹線新駅周辺はどうかということの中で、新川農林振興センターのあの場所は、面積が1万2,000平米ほど、県の地面がございます。あそこ、実はほかにも、新駅周辺の雨水処理の調整池として検討できるかというようなことも過去には考えたことがありますが、調整池までは必要がないという今の判断で、今、あそこは、県の土地ですから市が勝手にどうだということもできないんですが、今のところあそこについては、新幹線周辺地域の中で何かお願いするということについては、今現在考えておりません。

それから、将来新たな合併を考えて庁舎を建設すべきじゃないかと。このことにつきましては、10月のタウンミーティングのときにもそういうご発言がありました。そういうことが将来、どのくらいの将来かわかりませんが、20年後か30年後かわかりませんが、そういう時代もやがて来るかもしれないということについては、今の段階で考えることが必要かどうかということも含めて、またその点もご意見として考えていきたいというふうに思っております。

【事務局】

Hさん、よろしいでしょうか。

そのほか、ありませんでしょうか。

【Eさん】

公共交通ネットワークの延長線の話ですけども、並行在来線の絡みも避けて通れんのではないかと。地鉄さんが今後どういうふうに関わってくるのか、あるいはまた各市町村、県の調整がどういうふうにするのか、私どもにはちょっとまだわからないんですが、やっぱり並行在来線のその道筋とある程度並行して、公共交通、入善やたらいろんなマイバスの、そういうものもにらみながらやる必要があるんじゃないかと思いますが、その

点につきましてはどうお考えですか。

【市長】

今、Eさんが言われるように、並行在来線の問題は大変大事な問題だというふうには思っております。ただ、一方で、この並行在来線の問題は、大変難しい問題です。この長野、新潟、富山、石川、金沢までのまず開業までに、4県にまたがるこの総延長270キロの並行在来線というのは、今までどこの地域も経験したことの無い、4県にまたがるそしてまた最も長い並行在来線が、今までは新幹線の開業と同時に並行在来線として運行が始まるということがやはり言われております。それぞれ、特に各県の考え方が今のところ全くばらばらです。ですから私も、県の並行在来線の検討委員会の中でも、とにかく一番影響を受けるのは富山県。その中で、この並行在来線の問題をできるだけ早くこの道筋を示すのが富山県知事の大変大きな仕事、大事な仕事だということで、お話も申し上げておりますが、その運営、経営の大変厳しい予測が出ているものですから、その中で、なかなか方向性が示せないというのが今の現状かなと思います。

ここへ来て、新政権の、きのうの新聞ですか前原国土交通大臣が富山県を訪問され、そして、この並行在来線のことにも触れられました。地方がこの並行在来線についていけない、対応できないこともあるということで、私はこの半年ほど前の県の会議の中で、少なくとも福井とか敦賀までつながるまで並行在来線の問題は先送りしてもらえないか、今限られた時間の中で、この超難問を解決するということが、我々地方の負担があまりないような形で運営するという方法がなかなかみつからない中で、もう少し延伸されるまで時間の余裕がもらえるのかということも言ったこともあるんですが、今の国土交通大臣は、そういう地方の状況も見据えながら、並行在の問題については、考えていきたいというようなご発言もされたというふうに、マスコミ報道を見ております。

ぜひ、この並行在来線が、我々の大きな負担にならないように、しかもまた並行在になっても、やはり利用者が便利でそれで低料金で利用していけるようなそういう並行在来線をどうつくるか、あげていくかということについては大変大事なことだと、本当に大きな難しい問題だと思います。

それとあわせて、この件と、特に黒部市は地鉄との絡み、まず並行在の経営主体がはっきりしない。だれが経営していくのか。そこに地鉄さんが参画されるのかどうかということによって、この本来東側方面の今後の地鉄さんの運行の考え方が少し変わってくるのではないかと。滑川魚津間8キロ余りが、地鉄とJRが今現在並行して走っております。それぞれが厳しい経営の中でやっておられるわけですから、その並行して走っているこれをそれぞれ、今後とも全部そのまま残していくということが、並行在来線になった場合に、それは難しいのではないかと。だとすれば、魚津から宇奈月温泉駅までのこの区間、その並行して2本のレールが何らかの形で相互乗り入れなり、あるいは一本化がされるようなことになったら、この魚津から宇奈月温泉駅までのこの地鉄線を将来だれがどういうふうにか経営していくくれるのだろうか、地鉄さんがそのままやっただけの一番ありがたい。それに対しても地元の負担がないようお願いしたいなと思っております。

県のほうには、県東部の地鉄の運行も含めて、並行在来線のJRのこの北陸線のこの枝線の話も今の並行在の中に含まないと言っておりますが、この北陸本線のJRと地鉄も合わせて富山県の鉄軌道のネットワーク、公共交通のネットワークを、どうしていくのかい

うことについては、一緒に考えていってもらえる必要があるということで、私は申し上げているところでありますので、この辺の絡みがおそらくなかなか結論は出ないと思います。結論が出なかったらどうなるかといったら、最後はもうやれることだけやって、一番まとめやすい方法でまとまっていくと、地鉄さんのことまではなかなか考えてもらえなくなる可能性がありますので、今のうちからとにかく鉄軌道のネットワークとして一緒に考えていってほしいということについては、強く県のほうに話をしているところであります。

【事務局】

Eさん、よろしいでしょうか。
そのほか、いらっしゃいませんか。

【Iさん】

私は内山のIです。

先ほど来いろいろと市庁舎のあれとかいろんな議論がされているんですが、まず、正直一番そういった議論の中で気にかかるのは、10月のタウンミーティングの中でも話が出ていましたけども、市の公債比率が22点何%ですか。県の中でも5つの中に入っているような財政規模の形、弱くなっている中で、この新庁舎建設となれば、当然財政基盤というのが一番大事でないかなということですね。そういったことをやはりやっていかないと、今の市の中で借金が500億円もある、そういう話も出ておるんですが、市民の中でもそういったことを懸念する方もたくさんいます。そういった金を将来の子供たちに残していいのだろうか、そういったことも気にされる方もたくさんいます。そういったものも前面に出して、そういったものも議論しながら、鉄道の関係、それから新庁舎、そういうものを含めて議論すべきではないかなといったこと、私も心配するところであります。

以上です。

【市長】

おっしゃるとおりであります。

まず、初めに財政力の実質公債費比率が20年度決算、今年度発表したものが22.9%であります。これが、21年度決算、今年度の決算がさらにもう少し悪い方の数字に増えていくのではないかと考えております。そこがピークになります。そして、先ほど来から新幹線関連とか、庁舎の話とか、たくさんほかにも総合振興計画の中で計画している課題がたくさんあるわけでありましたが、当然今の総合振興計画を立てる上で、私が一番計画をまとめるときにお願いしたのは、財政見通しを踏まえた上で、実行性のある総合振興計画を立ててほしいと、夢物語をつくらないということで、今現在計画が策定されてそれに向かって今動き出しております。

ですから、今の総合振興計画を立てたときに、これから10年間どれだけの投資的事業ができるのかということで検討しました結果、約300億円はできるというふうに考えておりました、それを平均化しなければいけないと。山谷をつくると、今ほど言われるような実質公債費比率などの改善がなされなくなります。投資的事業が30億円程度ずつ行っていくことは可能だという判断での上で、これまで進んでいます。

そこで、その300億円の中で、庁舎の建設とか新幹線周辺とかということを計画してい

るわけでありますが、当然、この実質公債費比率も平成29年、この総合振興計画の最終年度には18%を切るということも当然目標の1つに掲げております。それはどうすればいいのかということでありますが、今現在本年度の公債費、要は元利で借金を返しているのが約26億円ほどございます。それに対して、今年度もたくさんの事業を行っておりますが、新しい借り入れについては15億円以内、25億円とか26億円返しながら、新規の起債は15億円以内というルールをつくっております。その中で、今この計画がやれるという判断でやっておりますので、実質公債費比率にしても改善されます。

それともう一つは、実質公債費比率だけで市の力を見るということは、それは、私は間違っていると思います。実質公債費比率は県の中でもあまりいいほうではございません。昨年までは、一番悪かったほどですが、さらにうちよりも20年度では若干悪いところが少し出ましたが、もう一方では、財政力指数は0.8近くあったわけですけど、これは県で一番いいです。また、例えば、それから経常収支比率、固定費にかかる割合なんかは今85%ほどであります。これらについても県内では最もいいほうにございます。ですから、そういういろんな指数がありますが、それらを総合的に見て、黒部市の力を判断しなければならないのかなというふうに思います。

おっしゃられるとおり、実質公債費比率の悪さ、徐々にではあります改善させると。それから、起債残高についても、昨年度一般会計だけで230億円ほどです。それを最終的に10年後には220億円で今想定しております。借金は増やさないけども、今計画しているこれらの大きな事業は何とか実現する。借金を減らすために事業を全部縮小や廃止したら、それは数字だけは健全になるけれども、この地域の活力が失われてしまう。やれることは目いっぱいやりながらも、こういう財政的な改善は当然しなければならない、そういうふうに考えながら進めております。

【事務局】

Iさん、よろしいでしょうか。
そのほか、いらっしゃいませんか。

【Cさん】

今ほどの話なんです。それで、その中に市民病院、今度建て替えがあるんですが、これを含めた部分でも十分やっつけられるんですか。80億円ほど今かける予定で、市の庁舎を建てるときにもかぶってくる年があると思うんですが、そういったものも含めてどうかというのをちょっとお聞きします。

【市長】

病院については、先ほど平成28年度まで改修を完成したいと言いました。その改築について、実際工事期間を5年間ほど想定しております。ですから24年から28年と、ちょうど新庁舎の建設なんかとは重なってきます。ただ、病院は企業会計でやっておりますし、現在の経営状況は非常に優良な病院であります。ただ、一時的に投資がある、増えるわけでありまして、病院の経営そのものについては、健全は健全であります。一時的に赤字になるということは当然想定しています。それも、その減価償却費内の範囲内での当然赤字であって、実質的には堅実な経営を続けることができるのではないかなというふうに思

っておるところであります。

約100億円の病院の投資にはなると思いますが、そのうち施設関係が80億円、それから医療機器当たりが20億円ほどかかるのかなと思っておりますが、それらもあわせながら今病院の改築はできるという予定で、今計画を進めております。

【事務局】

Cさん、よろしいでしょうか。

そのほか、いらっしゃいませんか。

まだ、10分ほどございますので、どうぞ遠慮なさらずにご発言いただきたいと思いません。

【市長】

よろしいですか。

コミュニティーバスなどの話は、ぜひ忌憚のない意見をいただきながら、オーダーメイドで皆さん方の要望に応じたようなものをつくり上げていきたいと思っておりますので、先ほど言いました愛本地区から浦山方面までのルートにつきましても、この辺をぜひ停車していただきたいというようなことをまず言っていただきたいなと思っておりますし、また料金などについても、今までは往復200円のところかなというようなイメージでありますが、その辺のこと、あるいはこのバスなりあるいは乗り合いジャンボタクシーみたいなものの中で、やはり乗られて利用される方は高齢者の方が多いように思います。そういう中で、その決められた駐車場から自宅まで、それなりの距離がある方については、そこでおろされて、そこから1キロ、2キロ、歩いていかれるというような地域も想像できます。あるいは、栗虫方面などはどうするのかというようなこともたくさんあると思っております。それらについては、例えば予約制だとか、あるいはこういう場合には自宅の前、あるいは付近まで行ってもらうとか、そういうふうないろんな方法が考えられるのではないかなというふうに思います。会員制で予約制で玄関先までというような、何かうまい方法をぜひ考えていければなと思っております。それには、やはり利用者があまりにも少ないようだったら、経費的なものが大変重くなりますので、できるだけ多くの方に利用してもらえよう、というような運行方法をぜひ考えていきたいと思っております。それには、利用者の皆さんから何かこういうふうにしてくれというものをいただかないと、なかなかこちらで気がつかない点もたくさんあるんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひこの場でなくてもいいですから、法定協議会も立ち上げる体制にも入っておりますので、できるだけ早い段階でご意見をいただければというふうに思っております。

【Jさん】

私が質問するべき人間ではないとは思っていますけれども、若干、ちょっと突拍子もないような発言をいたします。

舌山の駅から新幹線新駅から、宇奈月までは地鉄に乗らない。だけど、市長さんが言われたように、地鉄とバス、公共交通、そういった形でいくという話がありましたよね。その中で、新駅から上はコミュニティーバス構想。例えば、わかりやすく言うなら、なないるバスですね。例えば1つは宇奈月から下がる、下から上に上がる、そういったバス構

想で黒部市の広範囲をネットワークでやる。新幹線の時にこういった話はなかったのですか。地鉄線ありきで話がされたのか。なぜそういうふうにするかといいますと、例えば、地鉄さんがいると踏み切りの場所が簡単に動かさないのでですね。それと料金の問題等も出ます。そういったことを兼ね合わせると、先ほどの地鉄の乗降客がだんだん減っている中で考えても、今後は、やはり人口減少の中で、学校も小さくなる、そういった観点から言うと、集落の中心地に空き家も増えます。そういったことを考えていくと、なないろバス構想、そういった考え方の発注はないものかと。

もう1点、ちょっと関係ないかもしれませんが、答えられなければよろしいですけど、私、麦酒館に携わっていたんですけども、あそこ道の駅になっていますね。それで、今回大変よろしいことなんですけれども、直売所を、つくられるということですね。なぜあの麦酒館の前、せっかくの駐車場スペースに対して直売所が建てられるのは納得がいきません。というのは、どうやって決められたか、そのことをお聞きしたいですね。例えば、私が考えていたことなんですけども、麦芽館の隣でと。間口が広いということは、人が来やすいんですね。ああいった建て方をすると、建物が死んでしまうというふうに考えます。今、基礎をやっていますけど当然四角いものが建つんじゃないかなと私は思います。というのは、農水省はわりと四角いもの、なぜかと言いますと、麦酒館をつくる場合も、真四角を提案されたんですけど、私らはやっぱり、一般レストランとも張り合っていけるような形態をつくりたいとことで、ああいった形で何とか、補助を受けたということを考えております。それで、実際に見られたらわかるように、農水の補助事業、ほとんどが真四角の長方形だと思います。そういった中で、あれだけガラス張りから含めて、それなりに工夫したものが、直売所をつくるのは大変よろしいんですけども、どうして、あそこに建てるのか。

【市長】

最初に、麦酒館前の直売所の話をしたと思います。この直売所建設につきましては、1年半ほど前からいろいろな議論がありました。大変紆余曲折をしながら、あそこまで来たものでございます。昨年度もぜひ早めてくれということでも言われたんですが、それについてはなかなか返事ができなくて、今そのときの計画ではだめだったということで、いろいろ再検討を重ねていただいた結果、今みたいな形になりましたが、その場所とか、中の施設の内容、規模については、麦酒館の社員の皆さん方が中心に、うちの農業水産の担当課といろいろ協議を重ねて、今の結論を出してきました。私も最初は何で真ん前なのかという反論も聞いたけども、いろいろな計画を検討した結果、これがいいということで決定されたようであります。麦酒館の直売所については、私はそれ以上、具体的な検討結果はちょっと聞いておらんがですが、いろいろ検討されて時間をかけた結果の結論だというふうに考えております。

それから、地鉄さんの話なんですけど、新幹線の新駅、あるいは舌山の駅から上をコミュニティバスにすればどうかということでもあります。新幹線の市民ワークショップなどで検討されたのは、いろんな議論があったんですけど、非常にたくさんの議論がありました。そういう中で、新幹線の駅から宇奈月温泉方面はトロッコ電車をおろしてきて、そこから、トロッコ列車に乗ってもらったらどうやというような意見とか、あるいは今ほど提言された、逆にバス関係は、車関係は全部でストップで、スイスのツエルマットみたいなイメー

ジで、ここから先はそういうガソリンとか軽油を使ったりとかそういうマイカーは禁止して、公共交通だけを乗り入れさせたらどうやというような意見もありました。

とにかく、先ほど言いましたように、地鉄線を機軸に考えておりましたので、逆の発想、地鉄をやめて全部バスにしたらどうかというような逆の発想はあまり聞かなかったと思います。これから、先ほどから言いますように、鉄道を何とか生かしたまちづくりを今後とも考えていくことが私は大事ではないかと思っています。

なないろバス構想というのは、ちょっと具体的な内容はわからないのですが、いろんなご提言があればぜひお聞かせいただきたい。今後、先ほどからバスのことについては、今、鋭意検討をしておりますので、ぜひそういうご意見をいただければありがたいと思っております。

【事務局】

Jさん、よろしいでしょうか。

【Jさん】

麦酒館については、市長さんにどうのこうのという話じゃないので。あれは、一応外構にああいうガラス張りしてあるのはそれなりに工夫がしてございます。麦酒館のお客様が、ガラス張りを、下から上、あれは水平方向に見るんじゃないかと、空間で見られるとそういう楽しさがあるということのなかで、取り入れたということでございます。そういったことを兼ね合わせて、私事をちょっといったかわかりませんが。

それと、バスのなないろ構想というのは、基本的に宇奈月に向かう者、入善、朝日に向かう者、魚の駅に向かう者、当然魚津方面、それと立山方面、列車からおりるとそこからすぐに立山に行く、そういった形のイメージのものがあってもよいと、あそこの運行関係は変わってくるんじゃないか。

今までずっと見ていると、宇奈月温泉駅がバリアフリーにもなりませんのでね、なかなか地鉄さんも大変な今状況だと思いますのでそこまでは言いませんけども、そういったことも兼ね合わせるといいかなと思います。

以上です。

【市長】

新幹線の駅から、他市町に向かっていくそういうバス路線などというものは当然、つくっていただくような、そういう考えで進めていきたいというふうに思っております。

【事務局】

Jさん、よろしいですか。

最初にお話ししておりました終了時間が近づいておりますので、あとお一人のご発言とさせていただきますと思いますので、ご協力をお願いしたいと思います。

どなたかいらっしゃいますか。

いらっしゃらないようですので、以上でご発言のほうを閉じさせていただきます。

それでは閉会に当たりまして、堀内市長から本日、お集まりいただきました皆様へのお

礼も含めまして、ごあいさつ申し上げます。

【市長】

大変長時間にわたって、皆さん方には大変貴重なご意見をたくさんいただきました。まことにありがとうございます。

まず初めに、医療関係につきましては、病院の大改築を考えて、計画しておりますし、また、この黒部市民病院は新川地域、あるいは県東部の中核病院として、今後とも発展させていかなければならないというふうに思っています。黒部市にとりましても大変大きな財産でございますので、これをそれまで以上に経営も含めて安定した、そしてまた皆さん方から信頼を得られるような病院として今後とも経営をしていく、運営をしていきたいというふうに思っておりますので、そういう中で、医師、看護師不足というのは大変難しい問題でございます。特に、医師も大変なんです。医師は今年度80人、3月末には74人ほどおられたんですが、またさらに五、六人のお医者さんをお願いして、今80人体制とさせていただきます。ただ一方で、看護師さん、今現在340人ほどおられますが、この看護師さん確保は医師確保とあわせて大変難しい状況でございます。ぜひ皆さん方のお知り合いの方、あるいはこれから将来の仕事を考えられるというような家族の方々おられたら、看護師さんは就職は大変有利です。難しい中で、就職については本当に有利になってくるのではないかなというふうに思います。ただ、市民病院は大変忙しい病院ですから、看護師さんにおいては、大変厳しい環境かもしれませんが、大変やりがいも一方ではあるというふうでありますので、ぜひ看護師さんをお一人でも多くご紹介なり、いただければありがたいなというふうに思っております。

次に、公共交通であります。新幹線時代開業を向かえて、この公共交通のネットワークを私は改めて考えていかなければならないと思います。コミュニティーバスを県内の市で運行していないのは黒部市だけでした、これまでは。ぜひこれを機会に、いろんな地域の先進事例なども参考にさせていただきながら、皆様方に喜んでもらえる、そしてまた効率的、な運行を行っていきたいというふうに思います。来年度から、テスト走行を2路線ほどでやりたいなというふうにも考えています。23年度からは実証運行に入りたいというふうに思っておりますので、先ほどからも言うておりますようにオーダーメイドでやれるような、そういう仕組みを考えられないかというふうに思っておりますので、そういう仕組みを考えるためには皆さん方のいろんなご意見がやっぱり必要でありますので、ぜひ忌憚のないご意見を言っていただきたいと思います。

それから、最後に、新庁舎の建設につきましては、これは大変関心が高いテーマでございますが、先ほど来言いますように、今新庁舎を建てるチャンスだというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんのご意見をいただきながら、最終的には1カ所で建てるしかございませんので、その決定を行ったときには、ぜひ皆さん方の温かいご理解をいただき、そして黒部市全体を考えて、その新庁舎をつくっていかねばならないのかなというふうに思っておりますので、ぜひその点もご理解をいただくことをお願い申し上げて、本日私の皆さん方に対するお願いと感謝の言葉にかえさせていただきたいと思っております。今後ともよろしく申し上げます。ありがとうございました。

【事務局】

本日はどうもありがとうございました。会場にお忘れ物のないように、また、お気をつけてお帰りいただきますようよろしくお願いいたします。

それと、先ほどお配りいたしましたアンケート用紙ですが、会場出口の回収箱へお入れいただきますようよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

了